



1. 第21回男女共同参画フォーラム実施報告

2016年11月5日(土)、第21回男女共同参画フォーラムを開催した。小金井祭期間中を利用して、午後2時から5時30分まで、「性教育は今～若者と「性」—学校教育ができること～」をテーマに、大倉韻さん(首都大学東京大学院博士後期課程)と、田代美江子さん(埼玉大学教授)にご講演いただいた。大倉さんは、報告予定だった羽瀨一代さん(弘前大学准教授)の代役として急遽ご登壇いただいた。

まず大倉さんには、「日本の若者の性愛に関する意識や行動の実態と変化～「青少年の性行動全国調査」報告～」と題して60分ほどのお話をお願いした。日本性教育協会が6年ごとに行っている全国調査をもとに、「デート経験率」「キス経験率」「性交経験率」や「性」に対する「関心の有無」「経験の有無」などを中学生・高校生・大学生／女子・男子で比較検討していただき、性行動が総じて低年齢化する傾向にある反面、恋愛至上主義的価値観は低下していること、また男子の傾向として問題視されがちな「若者の草食化」がむしろ女子において顕著であること、「草食」と「肉食」の二極化が進展していること、「性的関心なし・性交経験あり」の女子が増加傾向にあることなどが指摘された。また、男子の能動性と女子の受動性といったジェンダー規範が恋愛経験にも作用していることや、性暴力被害の推移と実態など、多岐に及ぶ論点を提示していただいた。



大倉 韻さん



田代 美江子さん

“人間と性”教育研究協議会(性教協)の代表幹事であり『季刊セクシュアリティ』の編集長でもある田代さんには、「日本における性教育の現状と課題—子どもの要求に応える性教育を—」と題して、やはり60分ほどの講演をお願いした。国際的な動向やアジア諸国・諸地域の取り組みを紹介していただいたうえで、日本のファッション雑誌や公共広告における性情報の氾濫、JKビジネスの実態、それに反して「性」を科学的に教えようとする教育の現状や、人権学習の欠如、権利としての健康という視点の欠如などの問題点をふまえ、「性の権利」として「包括的性教育」を行っていくことの重要性が強調された。そして、現行の学習指導要領のなかでも、さまざまな教科で「包括的性教育」が実践できること、そうすることで「性」についてポジティブなイメージをつくり、何

よりも性教育を受けた子どもが変わり、性教育を行った教師が変わること。そうした性教育は、子どもが信頼できる大人に出会い、大人が子どもに信頼される喜びを実感できる豊かな場であることなどが指摘された。

つづいて、男女共同参画支援室で協力してもらっている学生サポーターから、中学校保健体育の教科書記述を比較検討する報告が行われた。学習指導要領を前提にしながら、「異性」や「性差」に関するあつかいに差があること、性感染症予防の項目で「性的接触の忌避」と「コンドームの使用」に言及する構成に難点があることなどが指摘された。これらをふまえ、座談会では本学教員(養護教育講座)の鈴木琴子さんより、若者の性経験に限らず、さまざまな場面で二極化現象が見られることや、性教育実践におけるジェンダーバランスについてコメントいただいた。また、学生サポーターの4名に参加してもらい、フロアとの質疑応答もまじえて、性教育のリアリティや多様な性をふまえたモデルのあり方、現場教員へのアドバイス、大学教育の現状などが討論され、日々の細かい実践のなかに、状況を変えていくきっかけがある点などが確認された。参加者は48名(本学教職員17名、本学学生16名、地域住民1名、その他14名)。(文責 及川英二郎)



学生サポーターと質問に答える鈴木 琴子さん

2. 「女性活躍推進行動計画」に関する調査結果報告

東京学芸大学では、2016年4月に施行された女性活躍推進法に基づく女性活躍推進行動計画として、つぎの二つの目標を掲げている。

- 目標 1 大学教職員の管理職の女性比率を15%に引き上げる
- 目標 2 附属教員の女性比率を42%に引き上げる

この取組は、女性の活躍により多様な意見が反映され、男女共に活躍し、持続可能で働きやすい環境を生み出すことを目的としている。これを実現するために上記の目標を設定した。数値を掲げることの是非はあるが、ポジティブアクション(男女共同参画の実現のための自主的かつ積極的な取り組み)として効果的であると言われている。なお、この数値は、全国的な状況や本学の実態から算出した。

目標実現の取り組みなどについて、2016年9月に大学教員、事務職員に調査票を配布した。回答者は、教員159名(女性38, 男性121:全教員の48%)、事務職員139名(女性46, 男性93:全事務職員の62%)であった。

【教 員】

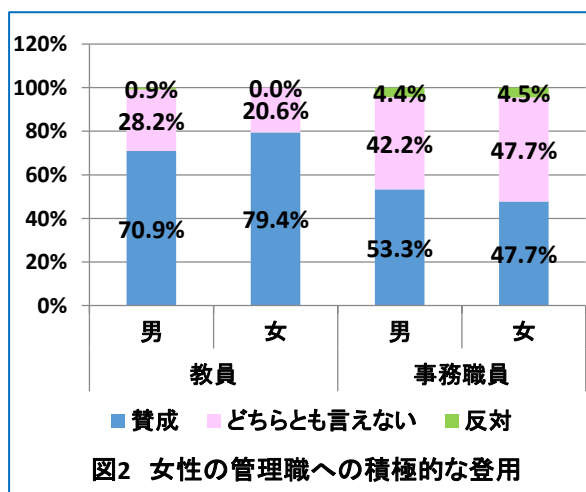
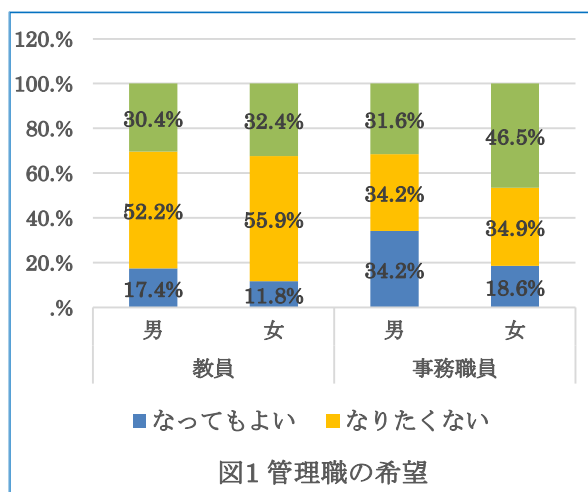
管理職の希望は、男女ともに半数以上が希望せず(図1)、理由として女性は「研究ができなくなる」「ストレスが増える」が多かった(図3)。一方管理職経験者は、研究の時間をとることは難しくなるという回答が多いが、「視野が広がる」とほとんどが回答していた。女性の管理職の積極的な登用については、男女ともに賛成が多く(図2)、女性はメリットとして多角的な見方ができることを挙げていた。女性管理職登用に効果のある取り組みとしては、女性は、「授業枠数」「補佐」「就業時間内の会議」を多く挙げていた。

以上から、教員は女性の管理職登用は必要と考えているが、授業、研究との両立が難しく、授業枠数の軽減や管理職に補佐を付けるなどの対応を求めていることが分かった。また、管理職経験者は「視野が広がる」と回答し、管理職になってからの成長について認めていた。

【事務職員】

管理職の希望は、女性では「分からない」とする回答が多く(図1)、その理由として「ワークライフバランスの難しさ」や「経験の不足」を挙げていた(図3)。一方、管理職経験者はワークライフバランスが難しくなるとは思わず(管理職の年齢によるのかもしれない)、視野が広がると回答していた。女性の管理職の積極的な登用については、女性は「賛成」と「どちらとも言えない」が同じ割合であり(図2)、メリットとして男女ともに多角的な見方ができるという回答が多い一方で、女性を特別視する必要はないという意見も多かった。女性管理職登用に効果のある取り組みとしては、女性では、「研修制度」「ロールモデル」「就業時間内の会議」を多く挙げていた。自由記述への記載では、適材適所を望む声が多く、また業務内容自体を見直してほしいという意見も見られた。

以上から、女性管理職については、適材適所を求めているが、業務内容の工夫、研修制度を充実させ、ロールモデルを示すなど、管理職のワークライフバランスの見える化を求めている。



【教 員】

【事務職員】

90% 70% 50% 30% 10%

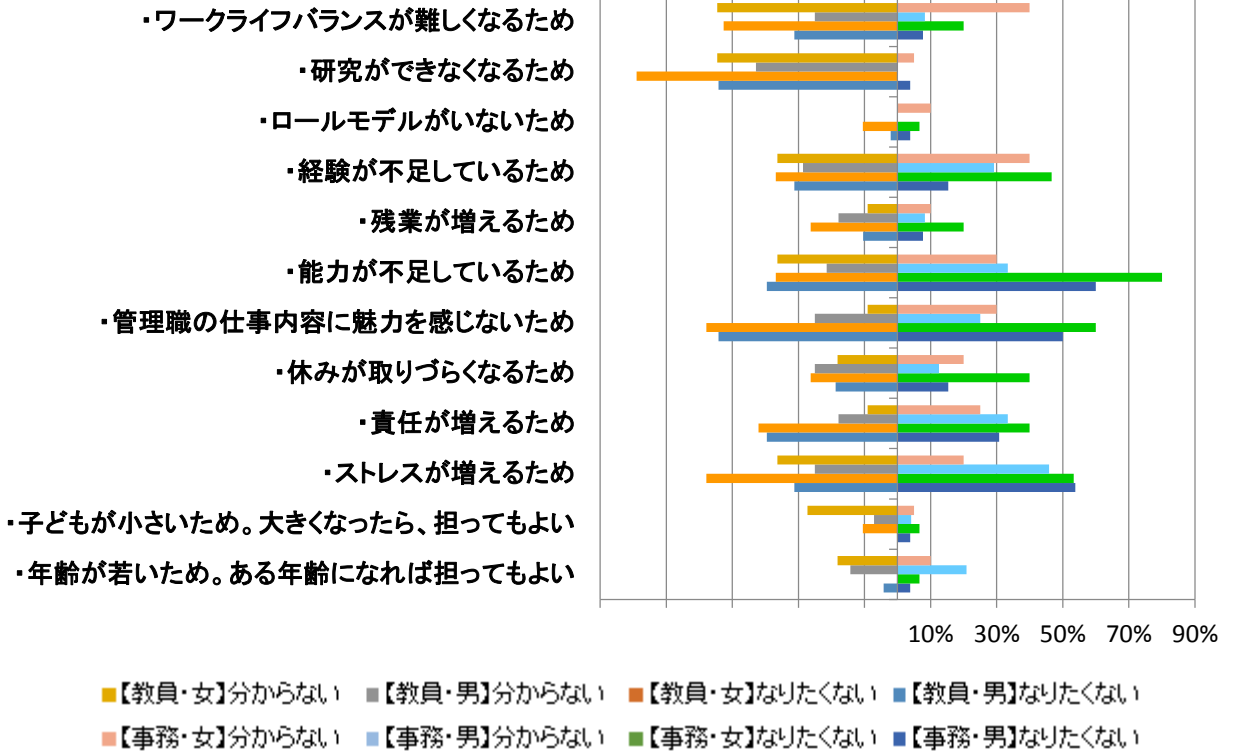


図3 管理職を躊躇する理由

3. 2016年度 第2回教職員交流会 —2016年12月14日(水)開催—

今回は「身近にある「性の問題」について語り合う」というテーマで、男女共同参画本部副部長の及川英二郎先生にオブザーバーとして参加いただきました。まず及川先生から、第21回男女共同参画フォーラムの報告をしていただき、性教育は人権問題とも密接な関わりがあるにも関わらず見落とされている現状や、教科をまたいだ包括的な性教育の重要性などについてお話しいただきました。

フリートークでは、フォーラム報告を受けて幼児教育における性教育のあり方について考え、また、LGBTが「笑いのネタ」として扱われた際の対応や、セクシュアルマイノリティの受験生への配慮など、参加者の体験談が話し合われました。参加者がお互いの経験や考えを語り合い、「性の問題」に対して見識を深めることができた良い機会となりました。

4. 支援室より

★ 「育児・介護・看護等支援補助員」制度

本学の教職員の、出産、育児、又は介護、看護と職務の両立を支援するために、支援補助員を配置する「育児・介護・看護等支援補助員制度」を実施しています。申請は前期(4月)、後期(7月)の年2回となります。

★ 「メンター制度」ご利用

事前に登録いただいている本学の教員や先輩がメンター(指導・相談役・ロールモデル)となって、「研究のこと(研究費獲得のノウハウ)」「ワークライフバランス」「先輩からのアドバイス」について相談できます。「育児・介護・看護等支援補助員」制度・「メンター制度」については男女共同参画推進本部のHPをご覧ください。

★ 2017年1月より介護休業が分散して取得可能となりました

最大3回までです。詳しくは大学就業規則 介護休業等規則をご覧ください。

5. インタビュー「岡 智之先生とヒューマンライブラリー ～対話を通して～」

12月に学芸大でヒューマンライブラリーを開催された岡 智之先生(留学生センター)に、ヒューマンライブラリーについての解説と、どのような目的で企画されたかを伺いました。

ーヒューマンライブラリーとは何でしょうか。

2000年にデンマークで始まり、欧州を中心に北米、オーストラリアなど世界各国で行われている、人と人が直接の対話を通して、多様な生き方を認め合い、多様に開かれた社会の実現を目指す試みです。今回は在日外国人・留学生、セクシュアルマイノリティ、発達障がいのある人、学習支援者などに自ら「本」となってもらい、参加者と対話をしました。

ー先生のご専門は「日本語学」「認知言語学」という事ですが、今回は何故この企画を行おうと考えられたのでしょうか。

研究テーマはその通りなのですが、今までに外国の人へ日本語教育を行ってきた経験や、日本人と留学生の交流活動、2015年から開設された「多文化共修科目」で、異文化理解を実践的に深めていく活動を始めたことをきっかけに、在日外国人問題だけではなく、性的マイノリティや障がいのある方の理解も深めていかなければならないという思いから始めました。今回は、男女共同参画支援室を始め様々な教職員の皆様との協働でこの企画を立ち上げることになり、教員養成大学でこの企画を行う意義が話し合われ、「未来の子どもたちに伝えたいこと」というテーマで開催することになりました。

未来の子どもに伝えたいこと
ヒューマンライブラリー
@東京学芸大学
12月4日(日) 12:30~16:00(受付12:00)
東京学芸大学 第2むさしのホール (詳細は裏面をご覧ください)
在日外国人・留学生、障がいのある方、セクシュアルマイノリティ、ユニークなキャリアを持った方々など 「生きた本」
東京学芸大学留学生センター 岡 智之研究室 (N棟2F) フェイスブックページ更新中!
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
Tel/Fax 042-329-7235 E-mail okatom@u-gakugei.ac.jp
主催:東京学芸大学ヒューマンライブラリー2016実行委員会(代表岡 智之)
後援:小金井市教育委員会、社会福祉協議会 協賛団体:東京学芸大学教職員組合、生活協同組合

ボランティア学生の作成したポスター



対話の様子

ー実際に開催した感想はいかがですか。

参加者や「本」としてご協力頂いた方々、ボランティアで参加した学生からのアンケートを纏めています。参加した人の多くが、「実際に話すことで初めて分かった事があった」「話し合った相手の気持ちがダイレクトに伝わり、メディアや本とは違うインパクトがあった」などの感想を持ったようです。詳しく知りたい方は報告書(支援室にあります)をご覧ください。



ー最後に皆様へメッセージをお願いします。

来年度も実施したいと考えています。
皆様、是非一度、ご参加ください。



東京学芸大学 男女共同参画推進本部・支援室
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1(合同棟2階) TEL: 042-329-7894
E-mail: shien1@u-gakugei.ac.jp URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/>